

2021年7月7日第107回BABOK研究会議事録

PM学会中部支部

IIBA日本支部

1. 日時

2021年7月7日(金)19:00~21:00

2. 場所

Zoom(Web会議システム)

3. 出席者

(敬称略順不同)

近藤、中村、山本、川島、浜口、河村、鈴木(記) 以上7名

4. 議題

(1)仮想企業 ArumakaN の BA 活動をテーマとした BABOK の体系的学習

(2)その他連絡・相談事項など

5. 議事

(1)仮想企業 ArumakaN の BA 活動をテーマとした BABOK の体系的学習

中村氏より、事例企業で作成した事業戦略の階層 MAP を説明いただいた。

階層 MAP (EXCEL 表) を作成したことにより、事業戦略がブレイクダウンできているか、あるいは出来ていないかが、明確に見える化できた。これは非常に価値のある資料ではないか。

資料をベースに、ロジックツリーで要求をブレイクダウンしてゆくことによって、組織の階層に応じた具体的な戦略が立てられているかどうかを、検証することができる。また、上位の要求項目を関係線で結んだ CLD (Causal Loop Diagram) を作成することで、項目の必要性や充足度を検証することもできる。意義や重要性も明確に見える化でき、説明しやすくなると考える。

ロジックツリーでブレイクダウンすることにより、階層ごとのタスクが明確になり、責任者の守備範囲も明確にすることができる。現在ツリーから外れた無駄な仕事が多いように見えているが、ツリーの整合を取ってゆく中で、本当に無駄な仕事なのか、あるいは遑って戦略が間違っているのかが明確になる。

懸念としては、CLD 作成で抜け漏れなく項目をあげて議論すること、項目からロジックツリーをブレイクダウンすること、二つを並行して進めることになるため、両者をファシリテートするのが大変かもしれない。

この階層 MAP を共有することで、本社から事業所の実態が良く見えるようになる、事業所間で共有すると、お互いの課題や強みが見えてくる。事業部間の連携が出来ればシナジー効果も期待できる。ラインで共有することで、社員の当事者意識を高めることができれば、組織文化を変えられるかもしれない。自工程完結の考え方を適用できればと考えていたが、まさにこの当事者意識が前提になっている。

過去の研究会の話題で、モデル企業の事業自体が、オリンピックを境に需要が減る話があった。長期の需要動向を盛り込んで、どう生き延びてゆくかを考えることも、これからは必要。本社経営企画では長期戦略を立てていて、ポイントとなるキーワードは押さえられているが、その先で具体的な戦略に落ちていないと感じている。CLD を作成し、ロジックツリーに落とすことで、もちろん現状の見える化も可能になるが、「より良い顧客価値を目指す。」という目的を明確にし、本社の方針に沿った事業部戦略や、部門戦略を、具体的に考えてゆくことで、イノベーションを産むためのツールになりえるかもしれない。

今後の進め方について、中村氏はもともと視野に入れていた、CLD 作成を進めていただく。作成に当たって疑問や相談事があれば、都度近藤氏が対応することにした。

(2) その他連絡・相談事項など

鈴木が 10 月で自社(学会法人会員)を退職となるが、個人正会員になっているので、学会幹事と研究会(議事録)担当は継続予定。

6. 次回予定

(1) 日程

第 108 回 BABOK 研究会は、2021 年 8 月第 1 週の水曜日、8 月 4 日に開催いたします。時間は 19:00~21:00 です。

(2) 場所

ZOOM(Web 会議システム) 予定、※ZOOM の URL は前週の開催通知で連絡いたします。

(3) 議題

仮想企業 ArumakaN の BA 活動をテーマとした BABOK の体系的学習

7. 成果物

今回の成果物は非公開とさせていただきます。

8. その他

特になし

—以上—